

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0570214304, 有限会社 つなぎの里(ぱんだ)).

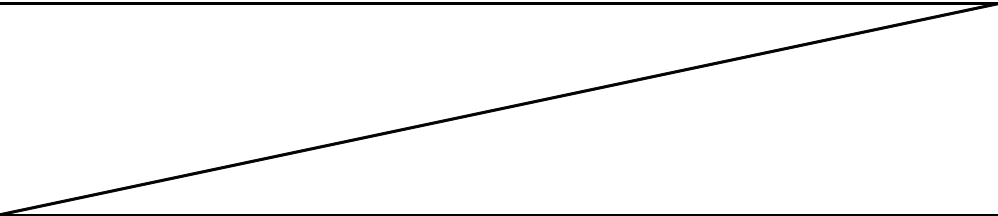
【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当事業所は、季節の花や自然に囲まれた環境豊かな場所である。現在、コロナ感染流行により、地域の方や家族との関わりが減少している中、できる事を見つけ、室内行事を多くし、季節の雰囲気を楽しんでいただけるよう工夫しながら、日々過ごしている。
また、入居者が、毎日過ごしやすく、穏やかで楽しい里と思えるよう、入居者や家族、地域の意見を取り入れながら、より良いホーム作りを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】



【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団, 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (1-4), and Evaluation (O/C). Rows include items 47 through 53.

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・“人とのつながりを大切にし、穏やかで、楽しい里でありたい”という理念を掲げ、日々取り組んでいる。基本方針として、“自由・絆・笑顔”を目指し、職員一同努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ感染により、状況が以前と違い、地域とのつながりが減っているのが現状である。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	・地域住民からの問い合わせがあった際は、その都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会は、定期的に行っているが、コロナ感染の流行により、会議は書面にて行い、質問等あれば連絡いただくよう、記載している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村担当者や他施設の方と連絡を密に取り、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・代表者および職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、身体拘束廃止委員会を設立し、身体拘束を行わないケアを話し合い、内部研修などを行って、職員で取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業について、現在利用している方はいないが、必要な方には活用できるよう支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居者・家族の方々へは利用するにあたり、不安や疑問点を確認し、十分な説明を行い、理解や納得をしていただける説明をするよう、努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	・意見や要望を訴えやすいよう、家族には年に1回アンケートの依頼をしている。 また、入居者とは日常会話や行動の中から思いや希望を汲み取るようにしている。		
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	・ミーティングにて各自、意見を出し合ったり、その都度職員の意見や提案を管理者から代表へ報告している。		
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ感染流行により、同業者との交流する機会が減ってしまったが、参加できる際は状況を判断しながら参加し、相互訪問などの活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け、安心して生活できるようにしている。入居者同士の会話からも、情報を得る事ができるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの場を設け、いつでも相談できるよう心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員一緒に作業したり、協力し合い、支えあっている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ事情により、面会などで近くでの会話をする事は叶わないが、電話や、入居者の様子を家族へ報告している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	電話のできる入居者には、家族等大切な人に電話をしたり、病院等は、本人の通っていたところへできるだけ行けるよう支援している。		
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、共同作業ができるよう、スタッフも声掛けなどで中に入り、支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて継続した関わりを支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の暮らし方や想いを日々の会話や行動から以降の把握に努めている。また伝える事が困難な方には、家族からの情報を聞き入れ、その人に合う暮らしができるように取り組んでいる。		
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話から情報を得たり、アセスメント等からこれまでの暮らしの把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	入居者や家族の要望を取り入れ、スタッフ全体での意見やカンファレンス等で検討し、作成している。		
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践を、個別記録に記入し、改善面や継続すべき事を話し合い介護計画書に取り入れている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここ数年はコロナにより難しい状況であるが、本来は、保育園や地域ボランティアの方々に来ていただき、また家族会等気分転換ができるように支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、適切な受診や指示が受けれるように支援している。		
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気付いた事は、職場内の看護職に報告、相談している。往診や受診で適切な看護を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、かかりつけ医、家族との情報交換に努めている。また、入院中の容体を電話連絡にて把握できるようにしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と話し合い、ホームの方針を説明した上で、希望に沿ったケアや支援に取り組んでいる。		
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な対応ができるよう、ミーティング内での勉強会を定期的に行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いにて、年2回、避難訓練を行っている。また運営推進委員を通して、地域の方へも協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライバシーを損ねないような声かけや対応を心掛けている。		
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。その人らしい身だしなみ、同じ洋服ばかり着る事がないよう配慮している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力、状態に合わせ、盛り付け、片付けなどを行っている。		
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、献立を作り、個々に食べる量や水分量を把握し、その方に合った食事形態を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行っている。自力でできない方には、口腔ケアガーゼを使用し、ケアを行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、排泄チェック表を使用し、時間を見ながら誘導、声掛けにてトイレでの排泄を支援している。		
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、ラジオ体操などの軽い運動、食物繊維ファイバーの使用、水分摂取ができるよう働きかけ、状態により、かかりつけ医から下剤を処方していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態に合わせ、定期的に入浴を行っている。		
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の健康状態を見て、食器拭き、洗濯物干しやたたみなど、できることを見つけ、日中の活動を多くし、また、雑誌や本など提供し、夜間気持ちよく眠れるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時についている写真付きの用紙を見て確認し、看護師に相談できる体制をとっている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いをしてもらい、役割を持てるよう支援に努めている。また、季節ごとの行事、毎月のレクリエーションを行い、気分転換ができるような支援を心掛けている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外への散歩や花見(ホーム敷地内)を行っている。		
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、いくらか小遣いを所持している。管理が困難な方は、ホームで管理し、希望がある場合はスタッフが代行している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や空調の調整を行い、過ごしやすいようにしている。花を飾ったり、季節を感じられるようにしている。日常の様子や行事の写真を廊下に張り付け、いつでも見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファなど気の合う人同士、隣に座っていただいたり、玄関に椅子を設置することで、一人で過ごす空間を大切にしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、使い慣れた物を置いている。		
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置している。また場所がわかるように目印をつけている。		